

医療経営士 滋賀・京都研究会

滋賀・京都を中心とした緩やかな学びの場 実務に根差した知見を積み重ねていく

酒井利明

社会福祉法人恩賜財団京都済生会病院診療情報管理室主事／医療経営士2級



酒井利明代表

自主研究会「医療経営士 滋賀・京都研究会」は2026年1月13日、全国医療経営士自主研究会連絡会に設立報告を行った。16番目の加入研究会となる。代表者は、社会福祉法人恩賜財団京都済生会病院診療情報管理室の酒井利明主事。事務局メンバーとして、2人が名を連ねた。「医療経営士 滋賀・京都研究会」

は、滋賀県および京都府に在住、または在勤する医療経営士を中心に、立場や所属を越えて気軽に交流できる場をつくりたいという思いから誕生した。日常業務の中で、医療経営に関する課題や悩みを抱えながらも、それを安心して共有できる機会は必ずしも多くない。特に、業務の多忙さや家庭の事情などにより、定期的な勉強会への参加が難しい医療経営士も少なくないのが実情である。

研究会の目標は、参加や発言を前提としないこと、役割を固定しないこと、そして長く続けられる関係性を築くことである。「常に参加すること」を求めるのではなく、それぞれの立場や事情を尊重しながら、無理なく関われる研究会であることを大切にしている。

そこで、研究会では成功事例のみならず、試行錯誤や課題も含めて共有することで、実務に根差した知見を積み重ねていくことを目指す。資格を単なる肩書きで終わらせるのではなく、日々の業務の中でどのように生かせるのかを、参加者それぞれの視点から考える場としていきたい。

経営士の参加を歓迎している点は特徴と言える。参加者それぞれのペースを尊重することを運営の基本方針としているからだ。

酒井代表は、「滋賀・京都という地域に根差しながら、医療経営士一人一人が自分のペースで学び、つながれる研究会として、静かに、しかし着実に歩いていきたい」と抱負を述べる。

医療経営士の役割について研究会では、医療現場と経営の双方を理解し、組織内外の調整役を担う存在としている。しかし、その役割や資格の活用方法は医療機関ごとに異なり、十分に生かされていないと感じる場面も少なくないのが現状だ。